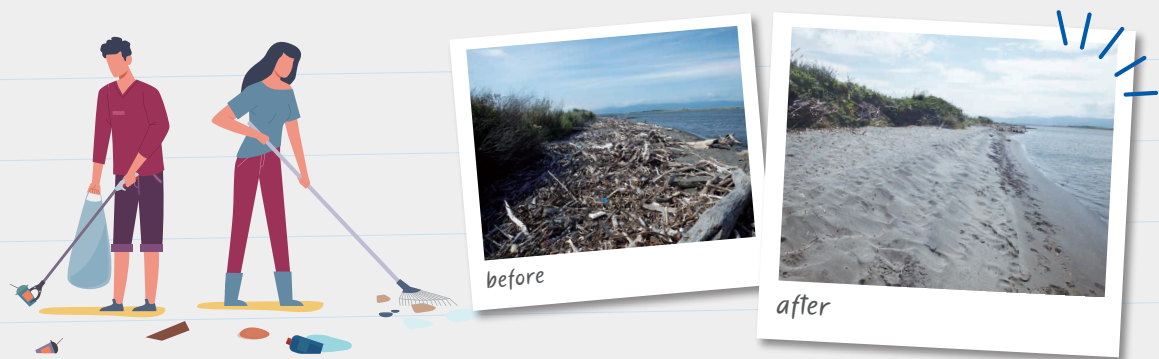


一緒にできることを始めませんか！

海岸には、河川や海域から生活系や産業系のごみが漂着して集まってきます。これらのごみは、景観を損なうだけでなく、悪臭の発生源や不法投棄の温床になります。また、堆積したプラスチックは、日光や風や波によって破碎・分解し、マイクロプラスチックとなって再び海に流出します。マイクロプラスチックによる海洋生態系への影響が懸念されており、国際的にも大きな問題になっています。海岸の清掃は、流出してしまったごみを回収できる最後の砦です。

【清掃活動への参加】

海や河川に流れ出るプラスチックごみを減らすため、地域の清掃活動に積極的に参加しましょう。



プラスチックとの賢い付き合い方

マイバッグ等の活用

マイバッグを持参してレジ袋を辞退したり、繰り返し使用できるマイボトルを活用するなどして、「使いきり」のプラスチック製品をできるだけ使わないようにしましょう。



使用後の処分

「使いきり」のプラスチックを使用した場合は、ポイ捨てをせず、ごみ分別のルールに従い、正しく処分しましょう。



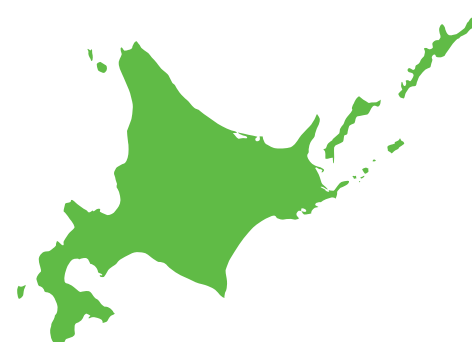
地球にやさしい製品の選択

お買い物の際は、「使いきり」のプラスチック製品ではなく、再生プラスチックや紙、バイオプラスチック等の地球にやさしい製品を選びましょう。企業の活動においても、地球にやさしい製品を選ぶよう努めましょう。



美しい海や川を未来へつなぐ人になって、
一緒に考え、行動しませんか。

北海道の美しい海や河川を守るために、
いま私たちが家庭でできること。
いっしょに考えて行動しませんか？



北海道のごみについて考えてみませんか？



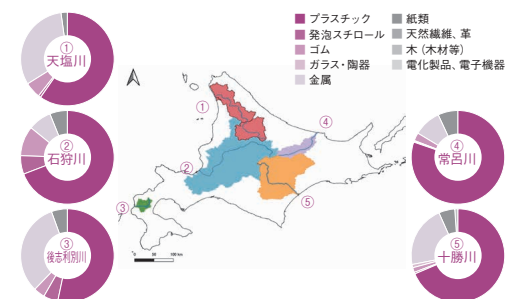
★：「令和2年度海洋プラスチックごみ発生抑制対策調査結果」より

北海道庁では、陸域からのプラスチックごみ流出に対する効果的・効率的な発生抑制対策を実施するため、道内の主要5河川(後志利別川、石狩川、天塩川、常呂川、十勝川)の流域や河口海岸において、河川敷の散乱ごみ、海岸の漂着ごみやマイクロプラスチックなどの調査を実施しており、★マークのあるグラフや写真は、この調査結果の一部を示しています。

河川敷の散乱ごみ

河川敷の散乱ごみはプラスチックの割合が多い傾向にあります。また、ガラス・陶器や紙類も多く確認されました。

見つかったごみは、ペットボトルや食品トレイ(プラスチック)、飲料ビン(ガラス・陶器)や包装紙(紙類)など、ポイ捨てと思われるものも多くあります。



★河川敷の散乱ごみの容積割合

★上流の橋脚付近では…

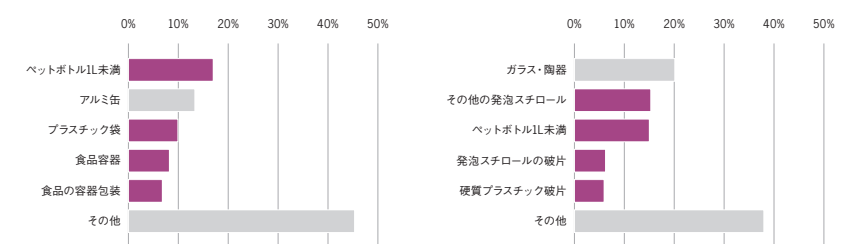
河畔線の茂みの中にポイ捨てと思われるペットボトルや食品パッケージが散見されました。



河川敷の散乱ごみと海岸の漂着ごみの違い

河川敷の散乱ごみは、ペットボトルなどのプラスチック製品が多く、金属の飲料缶も多く見受けられます。一方で、海岸の漂着ごみは、ガラスの飲料ビン(蓋がされたもの)や発泡スチロールが多く、川から流下しやすいものや海から漂着しやすいものが集まっています。

海岸には、事業活動で使用されるプラスチックも多く漂着しています。発泡スチロールなど漂着ごみの一部は、事業活動に伴い排出された可能性があります。そのためメーカーでは、生分解性のプラスチックを使った製品などの開発も進められています。

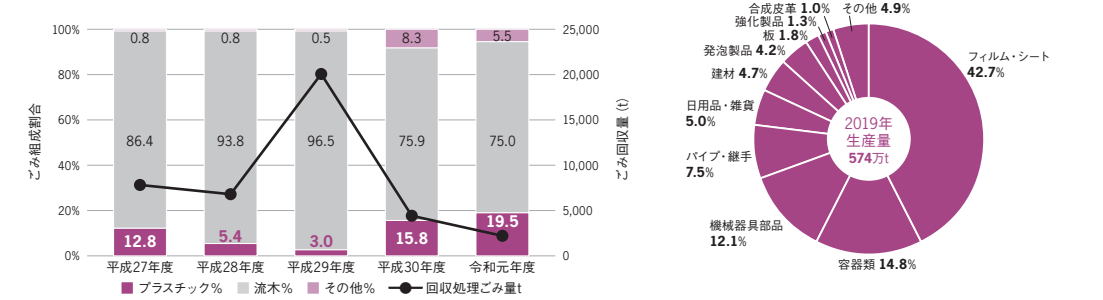


★河川敷の散乱ごみ(容積割合)のTOP5 ★海岸の漂着ごみ(容積割合)のTOP5

★漂着ごみの例



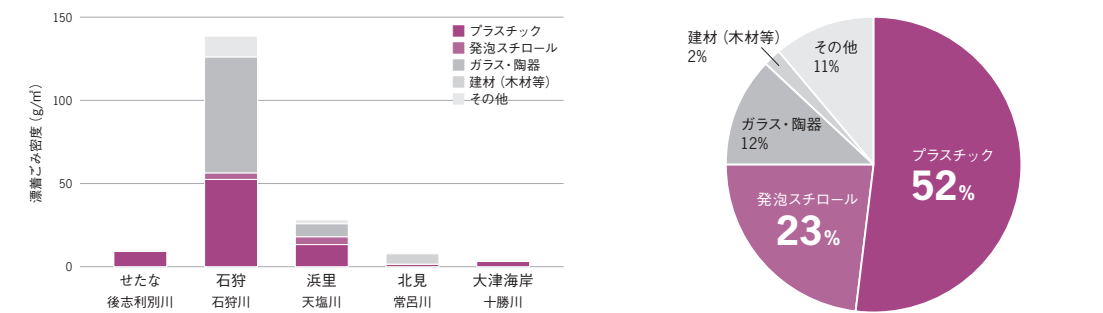
北海道の海岸に漂着するごみのほとんどは、流木などの自然物が占めていますが、近年、プラスチックなどの人工物の割合が増えてきています。プラスチックは丈夫で成形がしやすく、利便性が高いため、多くの製品に利用されています。



北海道の海岸漂着ごみの回収量と内訳
北海道海岸漂着物対策推進計画【第3次計画】より作成

用途別製品生産比率について
出典:経済産業省大臣官房調査統計発表の統計月報(プラスチック循環利用協会の図を改変)

北海道の主要河川の河口域にある海岸では、プラスチックと発泡スチロールが漂着ごみ(人工物)全体の75%を占めています。

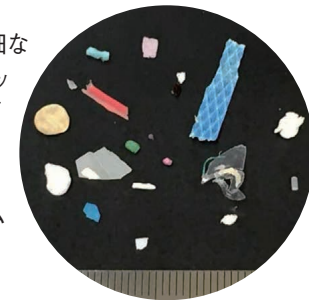


★河口海岸の漂着ごみ密度(人工物)

★漂着ごみ(人工物)の容積割合

マイクロプラスチックって何？

環境中に存在する5mm以下の微細なプラスチックを「マイクロプラスチック」と呼び、海洋生態系への影響が懸念されており、国際的な問題になっています。プラスチック片やビーズ状、フィルム状、繊維状等の形状があります。



●一次的マイクロプラスチック

洗顔料や歯磨き粉などに製造時から添加されているマイクロビーズなど。

●二次的マイクロプラスチック

レジ袋やペットボトルなどのプラスチック製品が自然環境中で小さくなったもの。紫外線や風波の影響で破砕・分解されて微細なプラスチック片になったもの。

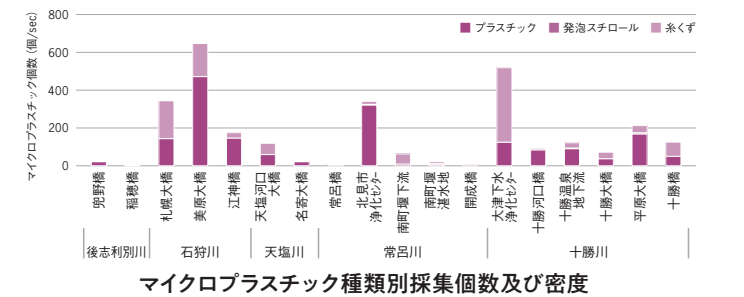
プラスチックごみやマイクロプラスチックは、海生物による摂食、誤飲が懸念されています。



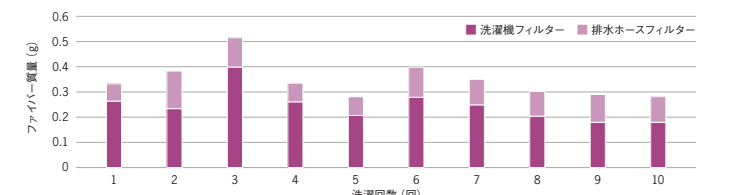
現在、各製造事業者によって、マイクロプラスチックの発生抑制に向けた様々な取組が進められています。

河川水中のマイクロプラスチック

河川水中のマイクロプラスチックは、プラスチック片が多く見られますが、都市部や下水処理場の下流では、繊維状のマイクロプラスチックの出現個数が増えています。



繊維状のマイクロプラスチックは、大気中に飛散・浮遊しているものが河川に流入するほか、特に、洗濯排水の影響が懸念されています。下の図は、洗濯回数毎の繊維状マイクロプラスチックの流出試験結果です。洗濯ネットによる効果が期待されます。



縦型洗濯機による洗濯で採集した繊維状マイクロプラスチックの量(被洗物:4Kg)
出典:環境省・漂着マイクロプラスチックを含む漂流・海底ごみの分布調査及び指標等の検討業務報告書(平成30年度)